

# 環境マネジメント

私たちの事業活動に伴い発生する環境負荷を低減するため、エネルギーの有効利用、廃棄物排出量の削減などを重点目標に掲げ、環境管理活動に取り組んでいます。

## 推進体制

「大日精化環境方針」に基づき、グループ全体で環境管理活動に取り組んでいます。

環境管理活動の運営組織である環境委員会は事務局と各製造事業所及び支社・支店の委員で構成され、事務局は化学物質管理委員会やエネルギー管理組織などと連携しながら、各拠点の活動を支援しています。

環境法令の順守を徹底するとともに、「地球温暖化対策としてエネルギーの有効利用の推進」「PRTR<sup>※①</sup>対象物質の排出量削減」「廃棄物排出量の削減とリサイクルの推進」「地域社会の環境保全活動」などの実績や改善情報を水平展開し、全社的な対応につなげることを目指しています。

※① PRTR(Pollutant Release and Transfer Register) 有害性のある多種多様な化学物質がどのような発生源からどの程度環境中に排出されたか、あるいは廃棄物などに含まれて事業所の外に移動したかというデータを集計・報告し公表する制度

### 大日精化環境方針

- 1 経営者、全社員が環境管理活動に参画します。
- 2 環境に配慮した製品の開発に努めます。
- 3 環境負荷の減少に努力します。
- 4 法規、条例、協定などを守ります。
- 5 社会との調和を図るよう対話を深めます。

## 2017年度 環境管理活動報告

### ① 地球温暖化対策

エネルギーの有効利用を目的にエネルギー原単位を前年度比1%削減することを目標に活動しました。

売上金額ベースでは同1.2%減となったものの、生産量ベースでは206.8 ℓ/tと同1.4%増となりました。近年、消費エネルギーが多い製品の生産量が増えていることが要因です。

今後は省エネ機器導入など設備面での対応とともに、製造部門での効率化やエネルギー原単位管理による工程改善を進めていきます。

### ② 環境配慮型製品の開発と売上高向上

販売数量は前年度比3.1%増となったものの、売上高は同0.9%減となりました。

※環境配慮型製品の詳細については当社Webサイトをご参照ください。

<http://www.daicolor.co.jp/rd/eco/index.html>

### ③ 廃棄物削減とリサイクル推進

リサイクル率は前年度比1ポイント増、最終処分量は前年度比1%削減することを目標に活動しました。

リサイクル率は同3.3ポイント減、最終処分量は同32.9%増となりました。一部製品群の生産量増加に伴い、廃棄物が増加したことが要因です。この製品群で発生する廃棄物については、設備面と処理方法で改善策を実施済みで、今年度は発生量抑制を見込んでいます。

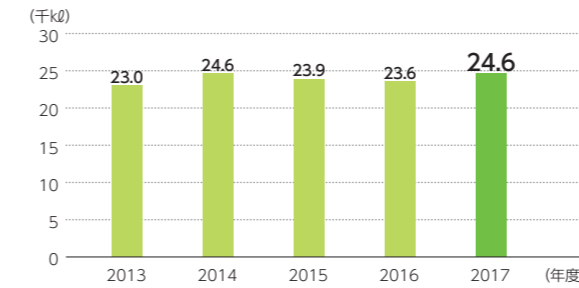
また、今年度においては昨今報道されているように、廃プラスチック処理の課題が上がっています。この課題はプラスチックを扱う当社でも課題であり、排出量削減とリサイクル方法の見直しの検討を進めていきます。

### ④ 化学物質排出量削減

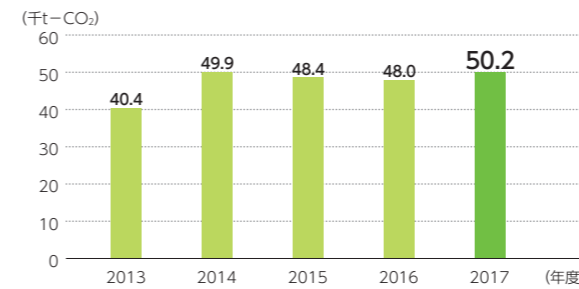
代替物質への切り替えなどによるPRTR対象物質排出量を前年度比1%削減することを目標に活動しました。

しかしながら、対象物質を使用あるいは含有する製品の生産量増加などから、同12.3%増となりました。

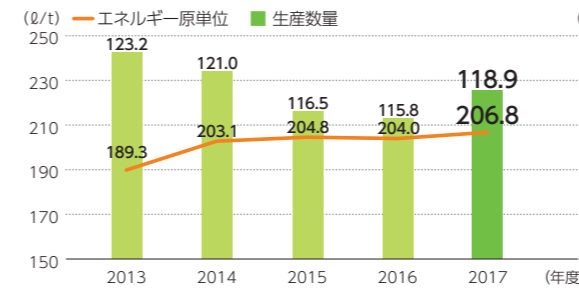
### エネルギー使用量の推移原油換算



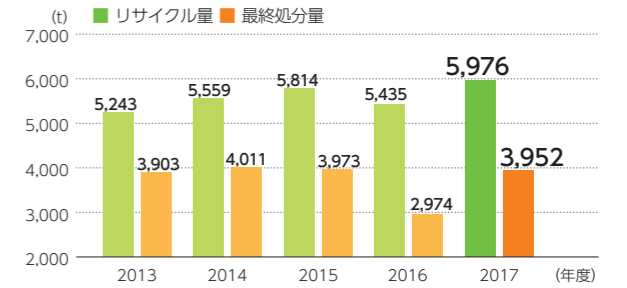
### CO<sub>2</sub> 排出数量



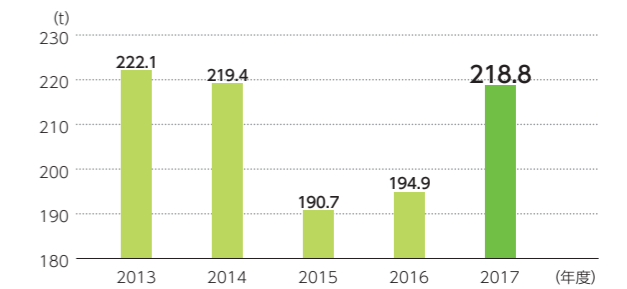
### エネルギー原単位と生産数量の推移



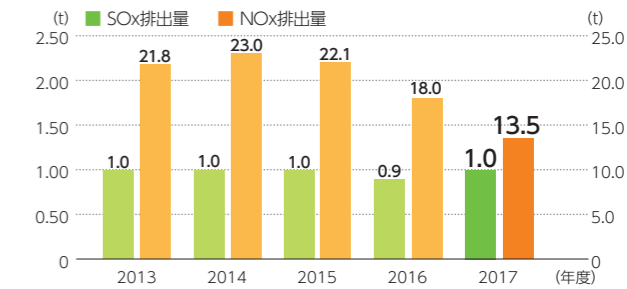
### 廃棄物 リサイクル量・最終処分量



### PRTR対象物質排出量



### SO<sub>x</sub>・NO<sub>x</sub> 排出量



今後はPRTR対象物質の代替品の採用を推進するとともに、溶剤回収装置などの設備導入も見据え、改めてPRTR対象物質削減の検討を行います。

### ⑤ 大気汚染防止・水質汚濁防止

汚染物質の大気や水域、土壌への排出による環境汚染を防止するために、汚染物質の排出管理を行っています。

公害防止と環境保全に係るSO<sub>x</sub><sup>※②</sup>、NO<sub>x</sub><sup>※③</sup>の排出管理では、SO<sub>x</sub><sup>※②</sup>排出量は0.9tから1.0tと若干増加しましたが、NO<sub>x</sub><sup>※③</sup>排出量は18.0tから13.5tに減少しました。

水質汚濁防止対策については工場排水の水質管理を徹底し、関連法令の基準値を順守して操業しています。

また、自主的な調査の結果、敷地内の土壌から環境基準を超えるダイオキシン類が検出された東京製造事業所及び東海製造事業所では、環境対策として土壌入れ替えなどにより汚染源除去を進めています。

※② SO<sub>x</sub>(Sulfur Oxide)硫黄酸化物  
 ※③ NO<sub>x</sub>(Nitrogen Oxide)窒素酸化物

### ⑥ 社会との調和

これまでいただいた近隣住民の皆様からの苦情に対し、その原因を調査し、再発防止策を徹底することにより、各事業所の新規苦情発生をゼロにすることを目標に活動しました。

昨年度は苦情件数4件のご指摘をいただきました。すべての案件に対して、原因究明と再発防止策立案・実施とともに、関係者への注意喚起も行いました。

### ⑦ 本社・支社の活動

本社や支社などの営業拠点では電力使用量の前年度比1%削減を目標として、空調設備の温度設定の見直し、各フロアでの室温チェック、休憩時間の消灯など基本的な取り組みを行いました。昨年度の電力使用量は1,143千kWhと同3%増という結果でした。

今年度は西日本支社などでLED照明に切り替えるなど設備面での改善とともに、空調設備の温度設定や室温チェックの徹底を行います。

## 環境管理活動評価と次年度目標

昨年度、各事業所ではそれぞれのEMS\*活動を通じ、本社・支社においては新規に下記の目標を設定し、環境管理活動を全社的に展開しました。

\* EMS: Environmental Management System の略で、環境方針を作成し、実施し、達成し、見直しかつ維持するための計画・体制・プロセスのこと。

事業所	項目	取り組み内容/目標	結果・実績	評価	2018年度目標
事業所	1 地球温暖化対策 (エネルギーの有効利用)	エネルギーの有効利用に取り組む。 目標 エネルギー原単位前年度比1%減を目指す。	● 生産量ベース 前年度比1.4%増 ● 売上金額ベース 前年度比1.2%減	☆☆	取り組みを継続し、前年度比1%削減を目指す。
	2 環境配慮型製品の開発・売上高向上	環境配慮型製品の開発を推進し、販売を促進する。	売上高は前年度比0.9%減 (販売数量では同3.1%増)	★★	環境配慮型製品の開発を推進し、販売を促進する。
	3 廃棄物削減 リサイクル推進	廃棄物発生量の抑制に取り組み、リサイクル化を推進し、最終処分量の削減に努める。 目標 リサイクル率前年度比1ポイント増 最終処分量前年度比1%減を目指す。	生産量増加に伴い、廃棄物が増加した。 リサイクル率 56.4% (前年度比3.3ポイント減) 最終処分量 3,952t (前年度比32.9%増)	★★	リサイクル率前年度比1ポイント増、最終処分量前年度比1%削減を目指す。
	4 化学物質の排出量削減	PRTR対象物質の排出量削減に向けた取り組みを継続する。 目標 PRTR対象物質排出量前年度比1%削減を目指す。	生産量増加に伴い、PRTR対象物質も218.8t(前年度比12.3%増)に増加した。	★★	PRTR対象物質の排出量を前年度比1%削減を目指す。
	5 法的要求事項の順守 (大気・水質・振動・騒音)	環境関連法令・基準を順守し、各種届出を漏れなく実施する。 目標 違反件数 0件	法令違反 0件	☆☆	引き続き法令・基準を順守し操業する。法令違反0件
	6 社会との調和	過去に実施した苦情対応策を徹底する。 目標 近隣の方からの苦情件数0件を目指す。	苦情4件(前年度11件)内、臭気1件、その他3件	★★	苦情0件を目指す。近隣と共同して地域の環境保全に努める。

### 本社・支社・支店

項目	取り組み内容/目標	結果・実績	評価	2018年度目標
1 地球温暖化対策 (エネルギーの有効利用)	空調設備の設定温度の見直しなどを行い、電力の効率的な利用を心がける。 目標 電力使用量前年度比1%減を目指す。	前年度比3%増	★★	取り組みを継続し、エネルギー原単位前年度比1%削減を目指す。
2 グリーン購入	コピー用紙などの事務用品に関し、可能な限り環境負荷の低いものを購入する。	エコ商品購入比率 56%	★★	取り組みを継続し、エコ商品比率の向上を目指す。

## 事業活動のマテリアルフロー

事業活動のため投入した資源・エネルギー量、発生した環境負荷に関する数値を把握・分析し、エネルギーの効率的な利用に向けた取り組みに反映させています。

